

# 東北薬科大学

平成 19 年度 大学機関別認証評価  
評価報告書

平成 20 年 3 月

財団法人 日本高等教育評価機構

## I 認証評価結果

### 【判定】

評価の結果、東北薬科大学は、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしていると認定する。

### 【認定期間】

認定期間は、平成 19(2007)年 4 月 1 日から平成 26(2014)年 3 月 31 日までとする。

### 【条件】

特になし。

## II 総評

「われら真理の扉をひらかむ」という建学の精神のもと、薬学の教育研究を通じて、広く人類の健康と福祉に貢献することを目標とし、3 つの柱の教育理念を掲げ、薬学の幅広い可能性を追求すべく 6 年制の薬学科と 4 年制の生命薬科学科を併置し、一段と高度なレベルで教育と研究の両立を目指している。平成 21 年(2009 年)に創立 70 周年を迎えるにあたり、新キャンパス整備計画を推進することにより、より先端的な薬学教育研究を推し進めると同時に学生に快適な学習環境を提供することに努めている。

薬学科は薬剤師養成を目指し医療薬学系、臨床薬剤系、環境衛生系の 3 ゾーン、多様な分野における先端的研究を目指す生命薬科学科は、創薬科学系、生命科学系の 2 ゾーンの計 5 ゾーンより組織され、大学院研究科と学部とが連携した「分子生体膜研究所」「ハイテク・リサーチ・センター」及び事務組織部門から成る教育・研究組織は単科大学の強みを発揮し、互いに教育理念を実現するためのシステムを形成している。薬学科は薬剤師養成の教育方法が体系的に教育課程に配置されており、生命薬科学科はポストゲノムを視野に入れ、製薬企業や各種研究所の研究開発職を目指す人材を養成する体制ができています。

各学科のアドミッションポリシーが明確に打ち出され、その差異が受験生によく判るよう説明され、入学試験は適切に行われているとともに、教育課程を適切に運営するために必要な教員が配置されている。「ハイテク・リサーチ・センター」学術フロンティア推進事業に選定され、研究業績に目を見張るものがある。

職員が大学運営において重要な役割を担う立場にあるとの認識に立って、職員の任用、資質向上に取り組むとともに、組織規程及び事務局分掌規程に基づき、必要な職員を適切に配置するなど事務体制の整備が行われている。

理事会を中心とした適正な管理運営体制が確立しており、また監事も理事会に必ず出席するなどその機能も果たしている。単科大学なので組織も簡潔であり、設置者の管理運営体制と大学の関係は十二分に機能しており、教授会や研究科委員会及び各種委員会との連携ならびに事務局における法人事務部と大学事務部についても、一体となって大学の管理運営に当たっており連携は適切である。学生生徒等納付金が帰属収入の大きな割合を占めているが、財務体制がしっかりしており、教育研究の充実に効果的に活用されていると共

に、70周年記念事業も順調に進行している。

大学設置基準を上回る校地、校舎が整備されており、質量両面において教育・研究課程の目的達成のために十分であるとともに、物的・人的資源を社会に提供している。

社会的機関としての組織倫理に関する規程は整備されており、遵守されている。

特記事項としては、文部科学省等からの補助金を積極的に獲得し、さまざまなプロジェクト研究開発を行っていること、地域社会との協力を重視し、医療人養成推進プログラム、医薬連携セミナー、スーパーサイエンスハイスクールの開催などを行い、地域に密着した教育研究活動を展開し、大学の積極的な教育・研究の方向性をうかがうことができる。

総じて、建学の精神、大学の基本理念、使命・目的、教育課程、財務に多くの優れた点を見出すことができ、一部改善を要する点は見受けられるが、その改善策に取り組むとともに、参考意見等を踏まえて、大学全体の更なる向上・発展を期待したい。

### III 基準ごとの評価

#### 基準1. 建学の精神・大学の基本理念及び使命・目的

##### 【判定】

基準1を満たしている。

##### 【判定理由】

「われら真理の扉をひらかむ」を掲げた建学の精神は、種々の媒体を通して学内外に明瞭かつ適切に示されている。真理の探究は、まさに大学の使命である教育・研究の原点であり、薬学教育・研究に対し真摯に取り組む姿勢と努力を求め続けるものである。教育理念は①自分の力で課題を解決していく人材②思いやりの心と高い倫理観をもち、高度で専門的な知識と技能を兼ね備えた人材③友情を育み人格形成に努め、国際的視野に立つ人材育成—という3つの柱も適切に学内外に周知されている。その教育理念のもと、薬学の教育研究を通じて、広く人類の健康と福祉に貢献することを目標とし、薬学の幅広い可能性を追求すべく6年制の薬学科と4年制の生命薬科学科を併置し、これまでの薬剤師の養成と基礎研究における実績を踏まえ、一段と高度なレベルで教育と研究の両立を目指している。一方、大学としては、平成21(2009)年に創立70周年を迎えるにあたり、21世紀構想委員会を中心として新キャンパス整備計画を推進することにより、より先端的な薬学教育研究を推し進めると同時に学生に快適な学習環境を提供することに努めている。

##### 【優れた点】

・教育理念は「自分の力で課題を解決していく人材」「思いやりの心と高い倫理観をもち、高度で専門的な知識と技能を兼ね備えた人材」「友情を育み人格形成に努め、国際的視野に立つ人材」を育成するという3つの柱が適切に学内外に周知されている点は評価できる。

## 基準 2. 教育研究組織

### 【判定】

基準 2 を満たしている。

### 【判定理由】

6 年制薬学部薬学科は薬剤師養成を目指し医療薬学系、臨床薬剤系、環境衛生系の 3 ゾーン、多様な分野における先端的研究を目指す 4 年制生命薬科学科は、創薬科学系、生命科学系の 2 ゾーン、全体で 5 ゾーンより組織されている。これらに融合して大学院研究科、「分子生体膜研究所」「ハイテク・リサーチ・センター」が組織され、事務組織部門が加わって、教育・研究組織は単科大学の強みを発揮し、互いに教育理念を実現するためのシステムとなっている。ただし、旧 4 年制薬学課程への教育システムの継続にも配慮が望まれる。

学長の諮問機関として、教育及び研究に関わる事項の立案・計画を審議する各種委員会又は協議会が設置されており、委員会等で審議された事項の意思決定は教授会又は研究科委員会で行われ、明確に審議組織と意思決定組織が区別されている。この実態に即した組織規程や組織図が必要であり、「カリキュラム委員会」「21 世紀新キャンパス構想委員会(21 世紀構想委員会)」「ハイテク・リサーチ・センター」など、実体のある組織にするよう配慮されたい。6 年制薬学教育制度のスタートに合わせ、新たなキャンパス建設計画が進行中であり、これに伴った教育組織、教育システムの改革を進めている点は高く評価できる。

### 【優れた点】

- ・学部の教育・研究における 5 つの研究ゾーンと臨床薬剤学実習センターが、薬剤師養成教育を目的として、連携を保っている点は高く評価できる。
- ・大学の使命に基づき、大学院、「ラジオアイソトープセンター」「実験動物センター」「分子生体膜研究所」が構成されており、それぞれ密接な関連性を持って運営されている点は高く評価できる。
- ・一般的な教養科目のみならず、医療人としての心を養う教育に配慮した「手話講習」「救急救命法学習」は評価できる。

## 基準 3. 教育課程

### 【判定】

基準 3 を満たしている。

### 【判定理由】

学科、大学院別にその使命・目的に応じて教育課程のシステムを構築していることは評価できる。6 年制薬学教育課程の薬学科は、薬剤師養成教育を目的とした教育方法が体系的に教育課程に配置され、3 つの教育理念に基づいて、「医療人としてのヒューマンズ教育」「医療薬学の充実」「実務実習の充実」を柱に効率的、体系的かつ適切に編成されてい

る。4年制教育課程の生命薬科学科は、ポストゲノムを視野に入れて、「人文社会科学系」「生命科学の進歩のもと分子生物学と創薬」「医薬関連科目」を柱に、製薬企業や各種研究所の研究開発職を目指す人材を養成する体制ができている。ただし、旧課程薬学部教育（3、4年生が在籍）にも配慮した体系も維持することを期待したい。また、学生が教養科目を柔軟に履修できるよう一層の配慮を期待したい。新6年制教育課程（薬学科）、新4年制教育課程（生命薬科学科）ともに、それぞれの教育課程の編成方針に即して教育課程が設定されていることは評価できる。

#### 基準4. 学生

##### 【判定】

基準4を満たしている。

##### 【判定理由】

薬学科、生命薬科学科、各々のアドミッションポリシーは、明確に打ち出され、入学試験も適切に行われている。ただ、アドミッションポリシーの内容を説明する文章は、高校生にとってかなり高度であるので、平易な文章で提示するよう配慮されたい。また、生命薬科学科では入学定員に対して入学者が著しく少ないが、入学定員充足に対する対策が必要である。

公募制推薦入試に、学力確認試験を取入れていることは、文部科学省の指導に反しているとの指摘があり、今後の推薦入試の取組みに配慮されたい。

学生の学習支援に対しては、「薬学教育センター」が中心になり、特に、成績不良者の学習支援にきめ細かく対応していることは評価に値する。

福利厚生施設等の学生サービス体制、教育・実習設備、「実験動物センター」「ラジオアイソトープセンター」などの教育・研究設備の整備は高く評価できる。更に、施設を建設中だが、完成時には、全国有数の施設を誇る薬科系単科大学となるものと期待される。一方、学生の生活支援に対しては、増加をたどる学生の心理的ケアの体制を早急に講じることが望まれる。

学生の就職・進学支援等の体制については、新4年制課程の生命薬科学科の学生の就職支援体制は未整備であり、早急の対策が望まれる。一方、殆どの学生が薬剤師になる薬学科の就職については十分に支援されている。

#### 基準5. 教員

##### 【判定】

基準5を満たしている。

##### 【判定理由】

学部及び大学院の教育課程を適切に運営するための教員数及び配置は適切である。教員の採用・昇任の方針及び規定は整備されており、適切に運用されている。ただし、教授の

数、年齢構成比、教養教員数等、更に適正な教員配置を整備するよう配慮されたい。責任授業担当時間にアンバランスな部分も認められるので、一層適正な配置を考慮されたい。全教員に任期制を導入し教育研究の活性化を図ると共に、TA (Teaching Assistant)、RA (Research Assistant)を導入し、教員の教育研究活動を支援していることは評価できる。教育研究費等については、活発に外部資金が導入され、「ハイテク・リサーチ・センター」学術フロンティア推進事業に選定されるなど研究資金、研究環境、研究業績については高く評価できる。教員相互に授業を参観する「公開授業」という評価に値する取組みを実施し、研究成果や留学の成果を報告する「集談会」が大学全体の取組みとして約1か月に1回開催されていることは評価できる。

**【優れた点】**

- ・公募制、任期制の導入により、教育、研究の活性化を図っている点は評価できる。

**基準6. 職員****【判定】**

基準6を満たしている。

**【判定理由】**

職員が大学運営において重要な役を担う立場にあるとの認識に立って、職員の任用、資質向上に取り組むとともに、組織規程及び事務局分掌規程に基づき、必要な職員を適切に配置するなど事務体制の整備が行われている。

職員の採用・昇任・異動に関しては、事務局長が理事長の経営方針を踏まえ、個別評価などにより総合的に判断し実施しているのは評価できる。なお、職員の個別評価の基準等について、規程の制定等により明確にすることが望ましい。

職員の資質向上及び職員の仕事に対するモチベーションを高めるため、アドミニストレータ養成の大学院通信講座の受講、海外研修への派遣など各種の研修等へ積極的に派遣していることは評価できる。

教育研究関係各種委員会の構成メンバーとして、関係課長等の事務職員を加えることが望ましい。教育研究支援のための事務体制が整備されており、職員が教育研究関係各種委員会に出席するなど教員との共通認識を持って業務に従事していることは評価できる。

**基準7. 管理運営****【判定】**

基準7を満たしている。

**【判定理由】**

理事及び監事の選任は適切であり、理事会を中心とした管理運営体制も確立し、適切に運営されており、監事も理事会に必ず出席するなど、その機能も果たしている。また、評

議員の選任及び評議員会の開催状況も適切である。現在、70周年記念事業としてキャンパス整備工事中であり、併せて薬学教育制度改正への対応中でもあるが、大きな課題を大学一体となって円滑かつ適切に決定のうえ、順調に実現に向け進めている。

管理運営については、単科大学であり組織も簡潔で、設置者の管理運営体制と大学の関係は円滑に機能しており、教授会や研究科委員会及び各種委員会との連携も適切である。事務局における法人事務部と学生部、教務部、入試部などの教学部門についても、一体となって日常の連絡・調整など、大学の管理運営に当たっており連携は適切である。なお、法人部門と教学部門とは、本来、機能及び役割が異なっているが、混然として区分されていない部分もあり、組織編成について留意が必要である。

自己点検・評価については、規定を含め実施体制は整備されている。それに基づき3回点検・評価を実施し、自己点検評価書を学内外に公表している。更に大学独自の外部評価も行い、その結果を外部評価実施報告書として公表している。これらの内部評価及び外部評価の結果が大学運営に反映されており、自己点検・評価について適切に実施し、その結果を反映している。

#### 【優れた点】

- ・ 創立70周年を迎えるに際してのキャンパス整備事業として、教育研究施設の新築や研究設備の整備、6年制薬学教育への移行、3項目の教育理念の決定など、大学の将来を賭けた大きな課題が円滑かつ適切に決定され、実現されている点は、高く評価できる。
- ・ 過去3回自己点検・評価を実施のうえ公表しており、その結果として多くの競争的資金の獲得、「ハイテク・リサーチ・センター」の設置をはじめとした新キャンパス整備計画に繋がっており、高く評価できる。
- ・ 自己点検・評価のほかに、大学独自で外部評価を受けており、その報告書の総括と提言が今回の新たな3つの教育理念につながっている。独自で外部評価を受けていること及びその結果が大学運営に反映されている点は高く評価できる。

### 基準8. 財務

#### 【判定】

基準8を満たしている。

#### 【判定理由】

学生生徒等納付金などの帰属収入は安定しており、収入と支出のバランスを考慮した運営がなされている。また、大学の教育研究目的を達成するために必要な財政基盤を有し、特に、平成16(2004)年から始まった新キャンパス整備計画が、借入金なしで進行中であることは評価できる。

会計処理については、学校法人会計基準及び経理規程に則って適正な会計処理が行われており、会計監査なども適切に実施されている。

財務情報の公開については、消費収支決算の概要を大学報に掲載するとともに、私立学校法に基づき「財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書」を利害関係者に閲覧さ

せることとしている。なお、分かりやすい解説を加えて、ホームページ上に掲載することが望まれる。

外部資金の導入については、奨学寄附金、受託研究費及び科学研究費補助金等の競争的資金の獲得に努めていることは評価できる。

## 基準 9. 教育研究環境

### 【判定】

基準 9 を満たしている。

### 【判定理由】

校地、校舎とも大学設置基準を十分満たして整備されており、質量両面において教育・研究の目的達成の為に十分の環境である。

平成 21(2009)年に創立 70 周年を迎えるにあたり、更には薬学部が 6 年制に移行する機会に、満を持した計画に基づき、キャンパスを拡張の上、施設を一新している最中である。マスタープランの基本方針も大学の伝統と特色を取込んでおり、完成後の施設については教育環境も快適で十分な規模を持つとともに、学生の研究も含め快適な教育研究環境ができあがっている。

施設と同時に研究設備も一新されており、最新の大型研究機器が利用者の利便を考慮したうえ、「ハイテク・リサーチ・センター」「実験動物センター」「ラジオアイソトープセンター」を中心として整備されている。またこれらの設備の維持管理については周到な配慮がされている。

施設・設備のほとんどが一新される予定であるが、その目的に沿った有効利用について、ソフト面も計画途上から考慮しておくことが重要である。特に快適なアメニティとしての学生のキャンパス生活について、例えば新学生食堂を外部委託する場合でも、メニューや料金等経営方針について、学生生活に配慮した大学独自の方針などの配慮が望まれる。

図書館及び学生福利施設が建築中であり、これらが完成すれば理想的な教育研究環境が整備される。

## 基準 10. 社会連携

### 【判定】

基準 10 を満たしている。

### 【判定理由】

大学が市街地にある場合、学外者の出入りには神経を使うのは当然で、その分キャンパス内の物的資源の公開を検討する場合、その対象者をどう区別するかキャンパス内施設の公開にはどうしても限界がある。そんな限界のなかではあるが、図書館や薬用植物園の開放や社会連携を図るため各種公開講座や生涯教育講演会を開催するなど努力している。

また、薬学部の特徴を生かして産官学連携活動を推進しており、学生の国際交流など今



後に展開が期待される活動もあるが、教育研究上においては地域社会との適切な関係が構築されている。地域の高校に対しては、高校生のための出張授業や薬学実験講座など、積極的に高校と協力関係を構築する努力を続けている。また、最近では小中学校との関係も築いている。

## 基準 11. 社会的責務

### 【判定】

基準 11 を満たしている。

### 【判定理由】

「個人情報保護に関する規程」「セクシャル・ハラスメント防止に関する規程」「研究倫理基準」及び「研究倫理委員会規程」等、各分野での法令遵守に関する規程が制定され、学内ホームページで公開するなど、適切な運営がなされていることは評価できる。

「防災管理計画」が制定され、防災対策委員会の設置や緊急連絡網を整備するとともに、毎年 2 回、全学的な防災訓練が実施されている。また、「安全衛生委員会」「環境保全委員会」等を設置し、危機管理の体制整備に努めている。

広報活動については、「広報委員会」「ホームページ管理運営委員会」等により適切に運営されていることは評価できる。